



五
162

尊書讀海内咸

冒河承篤々々

加告以所矯々々

縁談之事以陰之歩

と違ひて海々々々

幼年之頃字由者一

衆福之上告也々々

表年長音既々々

之戸心藉之海人者

其次中々竹井伊家望

の如くすうには戸籍

上より復々々々

其々々

の如くすまには戸籍
上より復舊せざる

田一己を直

の字名中上を評する

の難く亦一味及鷹

の方とも協議因

の語せられは王順

お立たす一も心

まの世直るまの

の苦にまの事結

の源系よおれを

の能く又連て

の連ひお附る

廿日 年

直彬

大隈を之